



東北大学



# AJP PRESS

ASIA JOINT-DEGREE PROJECT

2013.AUTUMN

Vol.05

## 高麗大 学校師範大学と 連絡協議会を開催

2013年5月20日(月)、東北大学大学院教育学研究科アジア共同学位開発プロジェクトでは、テレビ会議システムを活用して高麗大 学校師範大学と連絡協議会を開催いたしました。連絡協議会では、本研究科と高麗大 学校師範大学が共同学位創設を目指すうえで解決すべきと考えられる、単位互換制度の確立、成績管理方法の統一化、質の保証といった様々な課題に取り組みます。当然、こうした課題について、国境を越えた高等教育機関同士が解決していくには、多くの時間と労力が必要となります。今後も、テレビ会議システムを利用して高麗大 学校との協議の場を定期的に設けることで、多様な課題に迅速に対応しながら共同学位開発へ向けて努めて参ります。

また、連絡協議会では、共同学位開発において極めて重要となる「共同科目」の開設準備を推進していくことが確認されました。「共同科目」は、本研究科と高麗大 学校が共



同設計する科目であるため、今後、各大学における「共同科目」の担当者を中心としながら、より質の高いカリキュラムを構築することを目指して議論を交わしていきます。

さらに、共同学位開発に向けたこうした議論に加え、大学院生ワークショップの開催についても意見交換を行いました。具体的には、両大学の大学院生の成果報告会を年度末に共同で開催するなど、大学院生同士の交流の場を設けることが提案されました。そうした環境整備によって学生の海外への移動を促すことは、アジア共同学位開発プロジェクトが目指す、国際的視野を備えた人材の育成にもつながると考えます。

今後、テレビ会議システムを活用して高麗大 学校との連絡協議会を継続的に行いながら、学生の移動を伴った特色のある共同学位プログラムの開発を目指します。

# 集中セミナー in 仙台を実施



東北大学大学院教育学研究科アジア共同学位開発プロジェクトでは、2013年7月22日から24日に、「集中セミナー in 仙台」を実施いたしました。同セミナーは、日本語学習経験を有する海外の大学院生を招き、日本語による授業実践の可能性を探るとともに、国境を越えた学生同士の交流を促進することを目的としております。今年度は、高麗大学(韓国)から2名、東北師範大学(中国)から4名、南京師範大学(中国)から3名、国立政治大学(台湾)から1名、さらに東北大学から8名の学生が参加しました。

セミナーは、講義(1)～(5)に加え、フィールド・トリップとしての高校訪問、学生交流会、発表会によって構成されました。講義では、現代日本において生じている青年の諸問題について理解するとともに、自国におけるそれとの対比を通して、心理的諸問題の文化的影響に関する考察力を涵養することを目的といたしました。



	講義タイトル	講師
講義(1)	青年とはどのような時期か	神谷 哲司 准教授
講義(2)	現代日本の学校から職場への移行	三輪 哲 准教授
講義(3)	現代日本の青年の学習の特徴	深谷 優子 准教授
講義(4)	現代日本における青年の心理学的特徴	神谷 哲司 准教授
講義(5)	現代日本における青年期の諸問題と心理的支援	若島 孔文 准教授

講義(1)では、青年期に関する心理学的定義や特徴とともに、歴史の中で「子ども」や「青年」がどのように出現してきたのかについて説明がなされ、青年期の構造について理解を深めました。

講義(2)では、青年期にある若者にとって重要な人生の転機となる、就職に焦点が当てられました。教育社会学では「学校から職場への移行」として研究対象とされる就職について、変わりゆく社会の姿やその日本独特な仕組みを学びました。

講義(3)では、日本における青年の学力や学習意欲、学習方略などについて扱いました。全国学力・学習状況

調査の結果や、生徒・学生が用いる記憶方略やノートテーク方略といった具体例から、現代日本の青年の学習の特徴を学びました。

講義(4)では、第二次世界大戦後の日本において、高度経済成長からバブル崩壊といった社会経済的背景のなかで家族の変容とともに生じてきたと考えられる現代的な青年がもつ特徴について考えました。

講義(5)では、現在日本における青年期の諸問題として、いじめ、不登校・ひきこもり、家庭内暴力などを取り上げました。事例を示しながら解説が加えられ、その心理支援の実際の方法や考え方について理解を深めました。

集中セミナー in 仙台 スケジュール					
	I 8:50~10:20	II 10:30~12:00	III 13:00~14:30	IV 14:40~16:10	V 16:20~17:50
7月22日(月)	開講式 オリエンテーション	講義(1)	講義(2)		講義(3)
7月23日(火)	フィールド・トリップ(仙台市内の高校訪問)			講義(4)	
7月24日(水)	講義(5)	学生交流会	発表会準備	発表会	修了式

フィールド・トリップでは、仙台市内の高校を訪問し、校内見学に加えて授業観察も行いました。その際、参加学生からは日本の高校に関する多くの質問が積極的に投げかけられ、彼らにとって非常に有意義な経験となったことが伺えました。また、学生交流会では、講義(1)～(5)を通して学んだ内容に関連する議論を学生同士で活発に繰り広げました。そして、発表会では、セミナーを通じて修得した

内容を各自パワーポイントにまとめ、報告しました。

3日間という短い期間ではありましたが、セミナーを通して異国の学生同士が交流する大変貴重な機会を設けることができました。今後も、学生や教員同士が国境を越えて積極的に交わる場を創り出すよう取り組んで参ります。

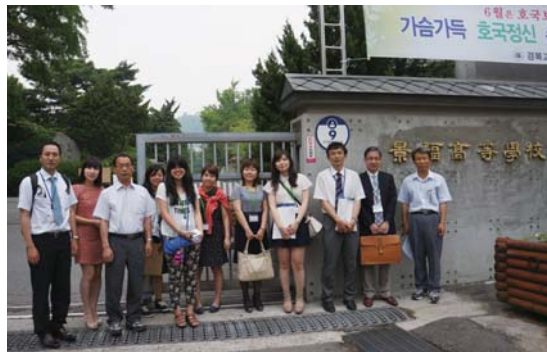


# 海外教育演習を開設

東北大学教育学部では、平成25年度より学部3,4年生を対象とした「海外教育演習」を開設しております。この授業は教育学に関わるフィールドワーク研究とその技法について学び、実際にフィールドで現地調査を行なうことにより、教育現象の本質に迫ることを狙いとしております。また、同科目の履修を通じて、アジア共同学位開発プロジェクトへの学生の参加意欲が高まることも期待されます。なお、今年度のフィールドワーク先は韓国の教育機関といたしました。

今年度は、学部3年生1名、4年生2名(自由聴講生)、修士課程1年生1名の計4名が受講しました。授業の前半(全15回のうち12回)では文献を中心にフィールドワークの技法や課題などについて学ぶと同時に、訪問調査地の言語である韓国語を学びました。

フィールドワークでは、6月23日から26日まで4日間にわたり4名の引率教員とともに、韓国ソウル市にある校洞初等学校、景福高等学校を訪問しました。そこでは、例えばICTを活用した授業や英語の水準別授業を、日本の教育現場と比較しながら観察しました。



こうしたフィールドワークを組み込んだ授業は、海外の教育現場を直接観察するという行為自体が持つ教育的効果を含むため成果も大きいと考えられますが、フィールドワークがワンショットサーベイになってしまい、十分

な期間・調査が確保できないことや、言語の壁、費用負担などが課題として挙げられました。こうした課題を解決しながら、今後も「海外教育演習」を展開させていく予定です。



## 2013年度上半期進捗状況 (2013年7月末日現在)

### 連携事業

- 2013年5月20日(月) 高麗大学校師範大学との連絡協議会開催(テレビ会議システム使用)  
参加者:小川佳万教授、安保英勇准教授、谷口和也准教授、  
神谷哲司准教授、朴賢淑助教、田中光晴助教

### 集中セミナー

- 2013年7月22日(月) 集中セミナー開催  
～24日(水)

### 海外調査

- 2013年5月28日(火) モンゴル国立教育大学(東京都にて打ち合わせ)
- 2013年6月23日(日) 【海外教育演習】慶熙大学校、校洞初等学校、景福高等学校  
～26日(水) (韓国・ソウル市)

### 国内調査

- 2013年6月28日(金) 高等教育シンポジウム「大学での学びを問い直す—主体的な学びを  
培う大学教育とは—」(東京都・有楽町朝日ホール)



**AJP** ASIA  
JOINT-DEGREE  
PROJECT

東北大学 大学院教育学研究科  
アジア共同学位開発プロジェクト事務室  
TEL:022-795-3756 E-mail:ajp@sed.tohoku.ac.jp  
[www.sed.tohoku.ac.jp/~ajp/](http://www.sed.tohoku.ac.jp/~ajp/)